



## 【大船渡市山林火災と学童保育】

岩手県大船渡市。えがおプロジェクトにとっては馴染み深い土地です。東日本大震災の後、愛知から何人もの学童保育指導員が保育応援に通いました。県連協からも保護者も一緒になって当地の研究集会にお邪魔し、交流を重ねてきました。

ニュースでも取り上げられていますが、ようやく震災の傷跡が小さくなり事業活動も活気が戻って来たか、という時の大規模火災。大船渡の皆さんの苦渋は想像するに難くありません。



避難区域が拡大し、期間も延びていると報道されています。学童保育の指導員、子どもたちはどうしているのか心配です。大船渡市と隣の陸前高田市の学童保育で構成する気仙地区学童クラブ連絡協議会や、大船渡の指導員さんから届いた情報を共有したいと思います。

\*被害の一番大きな市内三陸町綾里（りょうり）地区

学童保育は小学校内にあります。今のところ（3/5）小学校と学童保育の施設は延焼を免れているとのことですが、地域全体で被害が大きく、避難継続で学童保育所の再開も目処が立っていないとのこと。

\*西隣の市内赤崎町も通行止め・避難区域あり

赤崎小学校内に「にこにこ浜っ子」という学童保育所があります。通行止め区域となっており施設は大丈夫とのことですが、休校・休所が続いています。小学校の先生方は分散して子どもたちのいる避難所に向いて学習を見ているそうです。学童保育も再開を望む声が出てきたことから今週、市の施設を借りて再開すると（小学校からかなり遠く子どもの足では移動が難しい場所）聞いています。

\*また未確認ですが、学童保育の指導員や子どもたちの中に家が全焼した家庭があるという情報も届いています。

気仙連協の志田会長は「通行止めで確認に行くことも出来ない。しっかりとした情報がかめずもどかしい」とおっしゃっていました。気仙連協は岩手県連協とも相談して対策を検討されています。

物資や資金の不足、休所が続くので指導員の休業補償など、外からも応援が必要となるかもしれません。引き続き愛知でもニュースを追っていきましょう。

これを書いている5日(水)、久しぶりに現地は雨です。これ以上被害が大きくならないうちに何とか鎮火してほしいと切に願います。



### **【第 41 回あいち学童保育研究集会 石川県連協・森下会長より特別報告】**

3月2日(日)、南山高校(名古屋市昭和区)で開催された第41回あいち学童保育研究集会に、石川県学童保育連絡協議会の森下秀樹会長を、全体会の特別報告者としてお招きしました。「令和6年能登半島地震」の被災状況、避難時の子どもの様子、石川県連協の取り組みについて語っていただけたら、愛知でも「被災する」とはどんな状況に置かれるかの一端を知り、身近に捉えることが出来るのではないかと、そしてそれが災害への備えに繋がればと、位置づけ取り組みました。森下さんは、午後からの「第8分科会：学童保育の安全計画」にも参加してくださいました。

参加者の半数以上が現地参加する形は6年ぶりです。全体会には約300名が出席し、特別報告を聴くことができました。報告要旨については次のとおりです。

=====

まず初めに言わせて頂きたいのが、『愛知の方々に始め全国の皆さんの支援に「感

謝!』この一言です。



### **【震災被害のあった能登地域の紹介】**

震源の能登地域は高齢者比率が高く過疎化も進み、古い建物が多くあります。公共交通が不足し、車に頼る生活の地域で、地震により各所で道路が寸断され物資などの輸送・自衛隊・復旧業者・ボランティアの方々の移動に支障が生じました。また、復旧途上の9月21~23日にかけて能登地域で「能登半島豪雨」が発生し、河川の氾濫・土砂災害が多発し、生活再建のめどがついてきた地域に追い打ちをかける豪雨となりました。奥能登地域の学童保育に関しては我々県連協に加盟していない未組織クラブのため、直接情報把握が難しい状態でした。被害の大きかった能登半島先端の珠洲市は小学校に通う児童数の減少から学童保育を無くして放課後子供教室に移行している状態です。

### **【避難所生活にあそびを】**

そのなか、日頃から私たちとつながりのある金沢大学の先生の呼びかけで、いしかわ総合スポーツセンター(2011年第46回全国研の全体会会場)で、2次避難所が決まるまでの1.5次避難所(実質3~4日間の滞在の場)を県が開設しました。その場に避難

してくる多くの子どもたちに何か支援出来ないか・・・と、子どもたちが一時的でも震災の辛さを忘れ、遊べる場として「子ども広場」を開設し、学童保育指導員有志が保育（遊び）でボランティア活動に参加しました。現在は1.5次避難所はありませんが、この「子ども広場」は好評で、時間と場所の制限はありましたが子どもたちの遊びを支援出来たのは、日ごろ遊びを中心に子どもたちに寄り添う保育を行っている指導員だから出来たと感じています。

#### **【震災被害のあった地域の現状】**

奥能登地域では、仮設住宅に入れた方もいますが、自宅避難状態の方もまだ多く断水したままの地域もあります。石川県のこの冬の降雪については例年と同じレベルではありましたが、奥能登地域の幹線道路に設置されている融雪装置（北陸は北海道ほど気温が下がらない事から井戸水等を使用し雪を解かす装置が各所にある）の水が地震の影響で出なく、例年以上の除雪作業が必要となりました。小学校においては、建屋倒壊等で使用できない地域もあり他の学校へ子どもが通うところもあり、震災前の学校生活がおくれている校区もあります。

#### **【学童保育について】**

能登地域は小学校の空き教室を利用した学童保育が多く、いまだに支援物資が山積みとなっているなど小学校の事情に左右され遊びの環境が奪われている学童もあります。輪島市は震災前には12か所ありましたが、施設の損壊や指導員不足などの事情から今年度は3か所のみの開所となりました。

た。穴水町では、職員不足から今までの保育が出来ない厳しい状態が続いています。県連協と地域行政の担当で繋がりができた能登町の学童保育へは、愛知の方々もご協力頂き夏休みの指導員派遣に取り組む事が出来ました。

#### **【石川県連協の取り組みとして】**

県連協としては、震災後に各自治体や学童保育へ聞き取り調査をおこないました。その調査で得たニーズ対応として、おやつや遊具・文具を被災地の学童保育へ送る支援をおこなってきました。（石川の冬の時期は外遊びが出来ない天候が続き、屋内での遊びに特化した遊具・文具支援ニーズが多い）また毎年継続して開催している県連協主催の研究集会を先週開催した中で、学童保育の安全計画を参加者で確認しあう分科会を設定し、自分たちの学童の不足部分を認識するなど参加者間で議論することが出来ました。今後も、各クラブ安全マニュアルをブラッシュアップし「災害の備え」を考えていきたいと思います。また、被災した子どもたち・指導員について今後顕在化する不安・ストレスに対し「心のケア」を研修等活用し実施していきます。

奥能登地域はまだまだ生活の再建途上にあり、進まない対応にもどかしさを日々感じている状態です。県連協としては、今後も息の長い支援が必要と考え、引き続き支援活動に取り組んでいきたいと考えています。

=====

★会場カンパにも取り組みました。  
被災地域に出向いたり、出かけてきていた  
だいたりの相互交流・応援活動のために引  
き続き口座送金のカンパも呼びかけていま  
す。ご協力の程、よろしくお願ひします。  
3/2 当日には『25,017 円』が集まりました。  
ご協力ありがとうございました。

### 【カンパのお願い】

7～9 月に取り組んだ『能登半島地震  
ボランティア指導員派遣カンパ』のご協力  
ありがとうございました。97,152 円が集  
まりました。おかげで夏休み中に 6 名を派  
遣して、能登町の学童保育所の保育補助を  
することができました。

これまで、「東日本大震災復興支援え  
がプロジェクト」は、東日本大震災に特  
化したプロジェクトチームとして岩手県・  
福島県の連絡協議会や学童保育と連携して  
活動してきましたが、13 年たっただいぶ  
落ち着いてきたことと、昨今の頻繁に起こ  
る自然災害の状況に対応すべく「災害支援  
えがプロジェクト」として今回能登半島  
地震で石川県連協から要請のあった「能登  
町のボランティア指導員派遣」にこたえた  
次第です。また昨年度からは、安全計画や  
防災の活動にも取り組んでいます。

災害支援にはお金がかかります。下見経  
費・交通費・宿泊費・食費・ボラ保険代・  
報告会等今回 3～4 日職場を休んで派遣に  
参加していただいたみなさんには、保険代  
は負担したものの交通費や宿泊費について  
は、負担額の半額にも満たない金額しか補  
助できませんでした。今後も能登町とは研  
修会の開催などが計画されています。

愛知と被災地の学童保育の仲間をつなげ

て、励まし、支えあうためにもみなさんの  
カンパをよろしくお願ひいたします。

三菱 UFJ 銀行 蟹江支店 普通預金  
店番号：2 3 4  
口座番号：1 7 1 4 6 8 8  
口座名：ナゴヤシガクドウホイクレンラ  
クキョウギカイ ジムキョク

### 【保育関係者のための東日本大震災 被災地を訪ねる旅】

最後になりましたが大事なお知らせです。  
野津先生主催の「東日本大震災被災地を  
訪ねる旅」が 5/30(金)から 6/1(日)で企画  
されています。保育関係者のみならず多く  
の人に震災のことを学んでいただけたらと  
思い、ここに紹介します。



昨年、1月1日の能登半島地震、3月安全計画の作成期限、8月の南海トラフ地震臨時情報、9月の奥能登半島大雨災害といろいろあった1年でした。  
今回、学童保育所を含む保育関係者、保護者を対象としたツアーを企画しました。被災地の景色は変わりましたが、あの時、子どもたちや保育者はどのように行動し、子どもたちを守ったのかは、これからも学び続けなければなりません。  
震災時、どのように人々は避難し、助けられ、そしてできなかったのか。保育者は、子どもたちをどのように守ったのかを学び、教訓を生かす必要があります。  
また東北は、外国からの観光客はふえたものの、人口減少で止まりかかっています。日本三景の松島を始め、被災地を巡ることによる復興支援につなげてほしいと思います。娘さん亡くされた石巻磯辺さん、なかよし保育園長として冠水した保育園の2階で子どもたちを守った大橋巴津子元園長、自宅が流され、避難所生活を続ける中でNPO法人にいのちのつなぎを設立し、現在までこたえつたを支え続けている高田益紀さんの話を文で被災地の今を見ていただきます。  
今回の旅行の企画並びに旅行に同行し、震災当時の移り変わりを解説させていただきます。

**案内人紹介**  
氏名 野津 元 元能登半島大学教授  
東日本大震災後、翌日より被災地に入り学生によるボランティア団体「みんな笑顔をこぼれ隊」を結成し、被災地の子どもたちの保育ボランティア活動を6年続けています。  
主題は、「東北の保育者から学び、伝える・・・巨大地震が来る前にできること」ひとなる書簡

◆旅行期間 2025年5月30日(金)～6月1日(日)  
◆集合時刻 13時00分 仙台駅東口(仙台集合解散)  
◆参加費 15名以上48,500円(お昼ご飯別)  
名志願が参加費 88,000円(お昼ご飯別)  
12名以上54,000円(お昼ご飯別)  
名志願が参加費 93,500円(お昼ご飯別)  
◆定員 15名(最少参加12名)  
◆申し込み締切 5月15日(木)  
※東京、大阪などから往復の国内航空券の手配やご乗車のご都合はご自己責任です。  
※＜旅行社紹介＞みなみあかり旅行  
今回は旅行会社がみなみあかり旅行となつたため、みなみあかり旅行は、名古屋市内南生協病院1階にある旅行会社です。

◆旅行費用に含まれるもの◆  
○仙台駅～松島3日間の専用バス代  
○お昼ご飯  
○ホテル・トイン石巻河内インター  
○2泊・お昼ご飯、お土産1食を含まずの往復の飛行機代  
○お昼ご飯3食の朝食  
○お昼ご飯(2食)・1泊(旅行) 旅行保険代  
○お土産代(お土産)  
○東北地方の観光・経路の研修報告書  
※お昼ご飯以外の費用は各自お持ちください。

主催 東北の震災復興を子ども代 野津 元

月日	時刻	予定
5/30	08:00	名古屋駅南口乗降場(1階)の待合室集合
	08:25	新幹線にて 名古屋→仙台
	13:00	仙台駅南口乗降場(1階)の待合室集合
	14:10	石巻市津島公民館(1階)の待合室集合
	15:45	いよいよ仙台～松島間の講演
	17:45	ホテル・トイン石巻河内インター
	19:00	夕食(2食) 【朝・昼・夕・夜】
	08:00	朝飯後お昼まで、ホテル内
	09:00	大川中学校訪問、見学及び磯辺の方の話し
	11:00	女川町 ツーバスで女川川沿い 自由行動
	12:45	女川川
	13:30	元なかよし保育園園長・大橋巴津子氏の講話
	14:00	東北地方の震災復興支援協議会
	17:10	ホテル・トイン石巻河内インターへ
	18:00	夕食
	18:30	夕食 【朝・昼・夕・夜】
	08:30	松島海岸
	12:00	松島町
	12:25	仙台駅南口乗降場 解散
	13:31	仙台駅東口へ(乗車後 15:04) 東京駅 15:21
	17:09	名古屋集合 【朝・昼・夕・夜】

詳細はこちら

